

発行元
東京新聞
南千住専売所
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん

第25号
平成19年
2月13日

南千住の生んだ 歴史小説家 川村 掃部

「歴史は勝った者の視点から作られている。本当に負けた者は悪人なのだろうか。」

そんな思いを抱き、弱者の目線に立つ

た歴史小説を書き続ける川村 掃部さん(52歳)は、南千住在住。大学は西洋史を学び、卒業後、日本の歴史に興味を持ち、執筆活動を始めました。ペンネームの掃部は江戸時代に、千住に住み治水工事をし荒地を開墾し、後に、掃部宿となる新田を拓いた(現在の千住仲町、河原町辺) 石出掃部亮吉胤の名前から取りました。

主な著作は、

□武州鉢形城戦記―関白秀吉関東征伐(1990年発行)
鉢形城攻防を描く歴史小説。天正18年

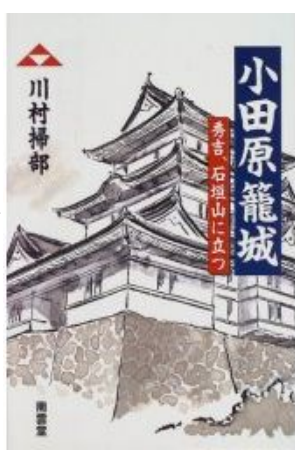
(1590)、北条氏邦(氏康三男)を城主に戴き、豊臣秀吉の大軍を迎え討つ関東の名族藤田一族は、鉢形城(現・埼玉県寄居町)に拠って勇戦敢闘1ヶ月、遂に降参する。その知られざる戦記、藤田一族の秘史を描く長編歴史小説。

□八王子城滅亡―天正十八年六月二十三日(1994年発行)

関東戦国の最終戦。天正18年(1590)6月23日、八王子城に何が起きたか。天下を狙う豊臣軍5万に対する城側は女も含め3千。多くの悲劇を生んだ運命の日を再現した歴史小説巨編。

□小田原籠城―秀吉、石垣山に立つ(1996年南雲堂出版 2243円)

戦国の天下はこの一戦で決まった!



天正十八年(1590)、関白豊臣秀吉率いる関東征伐三十万

の大軍を迎え討つ関東衆総動員の北条軍十萬。彼らは如何に天下人に立ち向かい、如何に戦ったか。その全貌を虚実取り混ぜて描く歴史小説。

□戦国関東謀叛人伝―或いは究極の忠義話(2004年文芸社 1785円)

関白秀吉の大軍勢に囲まれた小田原城

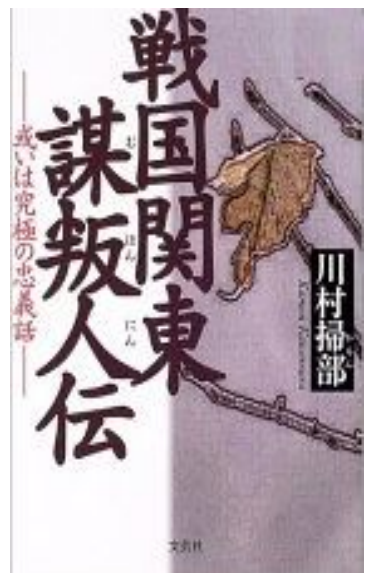
その籠城の只中、北条氏の重臣筆頭松田憲秀は豊臣方へ寝返り、それが為城内は大混乱を来たす。やがて北条氏は滅亡、

憲秀は後の世まで稀代の悪人と誹られる

事になる。

しかし、その謀叛にはある真意が隠されていた。裏切りと呼ばれた行為の奥底に輝く忠義と誇り、敵をも味方をも完全に欺む(あざむ)いて貫かれた酔乎(じゅうこ)たる至誠とは? 数百年の時を経て現われた松田尾張守憲秀の幻影が語る戦国の心とは?

もつれ合う伝説の糸の中から鮮やかな手際で真実をすくい上げ、歴史とは、人の心とは何かを問い掛けた意欲作。



川村 掃部さんは時間をかけ、膨大な資料をじっくり集めて大作を書かれています。作家活動のほかに隅田川市民交流実行委員会の会員でもあります。

埋もれた歴史の採掘人、地元の生んだ歴史小説家川村 掃部さんの最新の力作、「戦国関東謀叛人伝」を書店でお求め下さい。

本当の歴史はどうなのか、改めて考えさせられる事と思います。